

琉球大学学術リポジトリ

民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価 — 沖縄宮古島における実態調査—

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 比嘉, 要, Higa, Kaname メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/15567

民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価 —沖繩宮古島における実態調査—

比 嘉 要

目 次

1. はじめに
2. 研究の目的と方法
3. 結果と考察
 - 3-1 視聴と満足
 - 3-2 メディア依存と評価
4. おわりに
 - 付属資料 単純集計結果

1 はじめに

1993年12月16日、沖繩県の宮古・八重山地域に「沖繩テレビ」と「琉球放送」という沖繩本島に局社を持つ民放テレビ局が開局した。（本稿では便宜上、地上波による民間放送を民放と呼び、有線放送は含まないものとする。）これは県が郵政省の補助を受け、「先島地区民放テレビ放送難視聴解消事業」として取り組んだ結果である。

宮古島は北緯24度から25度、東経125度から126度を結ぶ網目の中に位置し、沖繩本島の南西およそ303kmにある。宮古群島は八つの島（宮古島、池間島、大神島、伊良部島、来間島、下地島、多良間島、水納島）からなり、群島の総面積は沖繩県総面積の約10分の1にあたる225平方キロメートルで、人口は約5万7千人、世帯数約1万8千戸である。宮古テレビは小島である水納島、大神島（両島合わせて人口100人未満）を除く全ての島を放送エリアにしており、加入世帯は約9,600世帯で、普及率は54.0%で

ある。ちなみにNHKの受信契約世帯は衛星放送の契約者を含め約15,600世帯あり、普及率は87.6%となっている。(1)

当初、先島地区の難視聴解消事業は第3セクター方式が検討されたが、県主体の公共事業へ変更となった。事業総額は約32億円で、海底ケーブル・マイクロ波回線施設に関しては県が3分の1を負担し残りを国が負担、テレビ放送中継施設については国が2分の1、県が3分の1、残りを民放事業者が負担した。(図1-1)

図1-1 補助率及び経費の標準負担割合

海底ケーブル・マイクロ波回線施設

国 2 / 3	沖縄県 1 / 3
---------	-----------

テレビ放送中継施設

国 1 / 2	沖縄県 1 / 3	民放事業者 1 / 6
---------	-----------	-------------

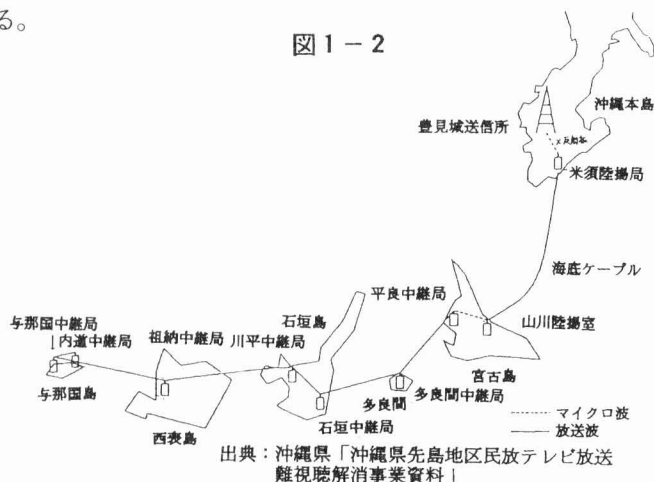
出典：沖縄県「先島地区民放テレビ放送難視聴解消事業概要」

沖縄本島でテレビの民間放送局が開局したのは1960年であるから、宮古や八重山のいわゆる先島地区では本島に30年遅れて地上波の民放が視聴可能となったことになる。先島地区の中で本島に最も近い宮古島でも300km以上離れているため通常の放送方法では電波が届かない。先島地区でテレビ放送が視聴できるようになったのは1967年に沖縄放送協会（OHK）が録画による混合編成番組の異時再放送を開始してからである。1975年からはNHK総合テレビジョンが電電公社（現 NTT）の専用回線である海底ケーブルを利用して宮古島まで番組を伝送し、同島の中継局から八重山地区へは放送波中継方式により放送を行なった。今回の民放開局は、NTTの新たな海底ケーブル敷設計画に県が途中から参加し、光ファイバーケーブルの3システムのうちの一つを使用することにより可能となった。沖縄本島の豊見城送信所（NHKと民放の共同所有）から糸満市米須にある陸揚室まではマイクロ回線を使用し、米須から宮古島の平良市山川陸揚室まで

は海底ケーブル、そこから平良中継局まではマイクロ波回線を使い、その後6カ所の中継局が地元へ放送をしながら島伝いに放送波を中継していく。

(図1-2)

宮古島と石垣島の中継局に対しては1972年に周波数使用計画により民放が使用するVHF 2チャンネルの割当が行われていたが、FM等の外国波の混信が増えていることから、これらの干渉を防ぐためにUHFによる放送となった。そのため、それぞれの島にある有線放送(CATV)の加入者は費用負担増もなく民放2チャンネルの再送信が視聴できるが、非加入者はUHF用のアンテナを新たに購入しなければ民放が見れないことになったのである。



宮古地区では地上波以外の民放テレビに関しては、1978年に有線放送局である宮古島有線テレビ株式会社(以下、宮古テレビ)が開局し、地域住民に民放番組の異時再送信サービスを始め、現在に至っている。石垣島も同様に石垣ケーブルテレビが存在する。従って、先島地域においては、CATV局が住民の民放視聴ニーズに応える役割を果たしていたのである。

CATVが民放番組を放送しているとはいえ、宮古の市町村長会が民放開局の要請を繰り返し行うなど、住民は地上波による民放の視聴を長年望んでいた。今回の民放開局を伝える地元新聞(『宮古毎日』『宮古新報』)

の紙面には「情報過疎地域の解消」や「民放の同時放送一圏域の活性化にどう生かすか」という見出しが掲げられ、両紙とも1993年度の宮古10大ニュースのトップにこの開局を挙げている。⁽²⁾

先島における民放開局のキーワードは「情報格差の是正」である。離島ゆえの情報格差は、様々な面においてみられるが、テレビ放送における「情報格差」とは本島と比較して情報量が少ないことと、民放の番組に関しては情報のタイムラグあるということを示す。⁽³⁾

CATVによる民放番組のサービス開始、さらに通信衛星（CS）による番組配給をCATVが受けることにより、「格差」に対する不満の比重は、見られる番組が少ないという量的な問題より、タイムラグに対する不満といった質的な問題に移っていったように思われる。

2 研究の目的と方法

本稿は筆者も参加して1991年に行った「宮古島における多チャンネル化と住民意識の変容」研究（以下91年調査と略）〈宮城 他、1993〉において課題として残された宮古テレビ視聴者のCATVへのニーズに関する後続調査の結果をまとめたものである。民放開局前の91年の調査では宮古テレビは民放番組を再送信する「基盤情報」メディアとしての存在価値が大きいと推測された。同局はこの他にもローカルメディアの側面と「特化情報」メディアの側面を合わせ持つが「基盤情報」メディアである民放が開局した場合、宮古テレビの存在価値が改めて問われ、そして明らかになると考えられた。⁽⁴⁾

今回行なった調査はCATV視聴者のメディア利用とメディア評価をもとに宮古の人々の情報行動と情報欲求を明らかにすることを目的とした探索型の調査であり、91年調査の後続調査ではあるが、民放が定着した後の住民意識の変容研究に先立つパイロット・スタディの要素も合わせ持つものである。

調査方法は宮古テレビ加入者名簿から系統的抽出（等間隔抽出）に基づ

き調査対象者500人を抽出し、1994年9月上旬に調査票を用いた郵送法により回答を得た。名簿上の不備もあったため、実際のサンプル数は494人、有効回答数は143票、有効回答率は28.9%であった。調査対象者の基本的属性は表2-1のとおりである。

表2-1 <属性>

<性別>	
男	107(74.8)
女	35(24.5)
不明	1(0.7)
<年齢>	
19歳以下	2(1.4)
20～29歳	6(4.2)
30～39歳	21(14.7)
40～49歳	46(32.2)
50～59歳	31(21.7)
60～69歳	25(17.5)
70歳以上	12(8.4)
<生まれ>	
宮古地区	127(88.8)
県内(宮古以外)	8(5.6)
本土	3(2.1)
その他	4(2.8)
不明	1(0.7)
<職業>	
管理職	19(13.3)
専門技術職	24(16.8)
事務職	11(7.7)
販売サービス職	14(9.8)
労務職	6(4.2)
商工自営	11(7.7)
農業	16(11.2)
漁業	1(0.7)
主婦	11(7.7)
学生	2(1.4)
無職	10(7.0)
失業中	16(11.2)
その他	16(11.2)
不明	2(1.4)

実数(%)

今回の調査は宮古テレビの加入者台帳をもとにしたため、被調査者の属性にある種の偏りがみられる上に、郵送法の常である低回答率のため、本サンプルが宮古テレビ視聴者の母集団を代表しているとは言い難い。しかしながら、回答者の75%がCATVへの加入決定者であること、また5年以上の長期加入者が71.3%であることから、本サンプルからCATVの今後を

予測する上で有益な知見が得られると思われる。（表2-2、表2-3）

表 2 - 2

〈自分が加入決定者か〉	
はい	108(75.5)
いいえ	35(24.5)
実数 (%)	

表 2 - 3

〈加入期間〉	
1年以内	5(3.5)
1～2年	5(3.5)
2～3年	13(9.1)
3～5年	18(12.6)
5年以上	102(71.3)
実数 (%)	

3 結果と考察

3-1 視聴と満足

宮古テレビへ申し込んだきっかけを尋ねた91年調査では「たくさんチャンネルが見られる」（35.0%）が最も多く、次いで「最新の情報が得られる」（13.3%）となっている。これは他の質問とのクロスから特化情報志向ではなく、NHK以外の民放志向である可能性が示唆された。また、最も関心のあるテレビ番組として「全国ニュース」（19.9%）、「宮古のニュース」（17.3%）が挙げられたが、これはテレビ番組一般に関する質問であり、これらの結果と宮古テレビに対する評価との関連については未調査のままであった。今回の調査では、宮古テレビへ加入して何が最も良かったと思うかとの質問に対しては「宮古のニュースが見られる」が56.6%と、つぎに多い「スポーツ番組が見られる」（14.7%）を大きく上回った。（表3-1）

これはローカル情報源としての宮古テレビに対する評価が高いことを示すものである。加入の際は都市型CATVのイメージで多チャンネル、最新情報に魅力を感じていたものの、実際には映画や海外ニュースが見られることよりも宮古ローカル情報を得られることに価値を見いだしていると考えられる。

表3-1

〈宮古テレビに加入して良かった点〉	
宮古のニュースが見られる	81(56.6)
スポーツ番組が見られる	21(14.7)
映画が見られる	9(6.3)
バラエティー番組が見られる	7(4.9)
ドラマが見られる	5(3.5)
郷土芸能番組が見られる	5(3.5)
海外ニュースが見られる	3(2.1)
ワイドショーが見られる	2(1.4)
音楽番組が見られる	2(1.4)
アニメが見られる	1(0.7)
良かったことはない	0(0.0)
その他	0(0.0)
不 明	7(4.9)

実数 (%)

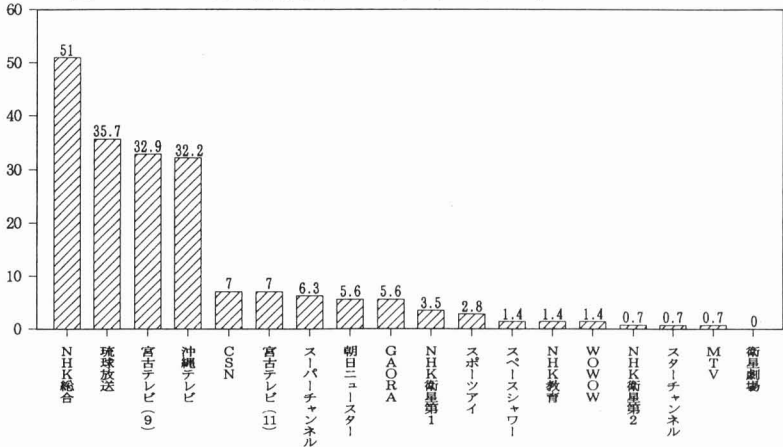
このことは有料チャンネルへの非加入者が71%にのぼることからも伺える。さらに良くみるチャンネルとして挙げられたのはNHK総合 (51.0%)、琉球放送 (35.7%)、宮古テレビ9CH (32.9%)、沖縄テレビ (32.2%)であり、その他のチャンネルを挙げたものはいずれも7%以下となっている。(複数回答)。宮古テレビの資料によると、有料チャンネルへの加入者は全体の1割にも満たない。⁵⁾ 91年調査でもNHK、宮古テレビ自主チャンネルの視聴が多く、今回はそれに民放が加わる結果となった。(表3-2、図3-1)

表3-2

〈有料チャンネルへの加入〉	(MA)
加入していない	102(71.3)
NHK衛星放送	24(16.8)
スターチャンネル	11(7.7)
WOWOW	8(5.6)
衛星映画劇場	6(4.2)
不 明	10(7.2)

実数 (%)

図3-1 <よく見るチャンネル> (MA)



NHKがよく見られているのは長年の視聴習慣とサンプルの年齢が高いことにあると思われる。また、ここに挙げられている宮古テレビ9CHは、2チャンネルある自主チャンネルのひとつで、自主制作したローカル番組もあるがテレビ朝日・日本テレビなど民放キー局の番組も独自編成で放送している。NHKの次に民放3局がほぼ同じ程度見られているが、宮古のニュースが見られることを評価する者が6割近くいるにも関わらず、自主チャンネルのチャンネルロイヤリティが特に高いというわけではない。

また、宮古テレビに対する満足感を推測する指標として、コスト感を問う質問したところ、視聴にかかる費用（加料料・視聴料）を「高いと思う」との回答が62.2%と、「適正だと思う」（30.1%）を大きく上回った。

宮古テレビの視聴を続けるかという問には、「たぶん続ける」（41.3%）、「続ける」（35.7%）と、計77%の者が視聴契約を継続するであろうと答えている。また、加入決定と視聴継続とのクロス結果から、加入決定者ほど契約を継続したいと考える傾向があることが分かる。（図3-2、表3-3）これは $\chi^2(4)=13.65, P<.01$ で有意な関連であり、また、加入決定者ほど視聴コストを「適正」だと捉える傾向にある。（ $\chi^2(2)=6.33, P<.05$ ）（表3-4） また、上記のことから当然のことながら、コストを「適正」

だと評価するものほど、契約の継続を望んでいる。($\chi^2 = (8)21.85, P < .0$

1) (表3-5)

図3-2

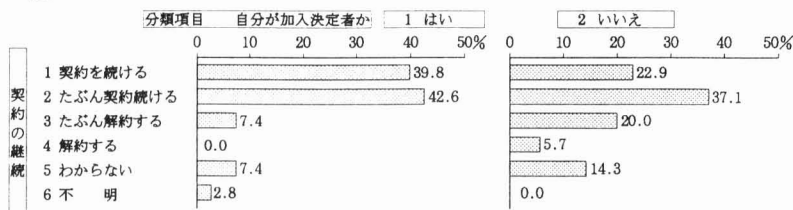


表3-3 表側 (SA) : 自分が加入決定者か × 表頭 (SA) : 契約の継続

	合 計	契約を続 ける	たぶん契約 続ける	たぶん解 約する	解約する	わからない	不 明
全 体	143 (100.0)	51 (35.7)	59 (41.3)	15 (10.5)	2 (1.4)	13 (9.1)	3 (2.1)
は い	108 (100.0)	43 (39.8)	46 (42.6)	8 (7.4)	—	8 (7.4)	3 (2.8)
い い え	35 (100.0)	8 (22.9)	13 (37.1)	7 (20.0)	2 (5.7)	5 (14.3)	—

実数 (%)

表3-4 表側 (SA) : 自分が加入決定者か × 表頭 (SA) : コスト感

	合 計	高いと思う	適正だと思う	分からない	不 明
全 体	143 (100.0)	89 (62.2)	43 (30.1)	11 (7.7)	—
は い	108 (100.0)	61 (56.5)	37 (34.3)	10 (9.3)	—
い い え	35 (100.0)	28 (80.0)	6 (17.1)	1 (2.9)	—

実数 (%)

表3-5 表側 (SA) : コスト感 × 表頭 (SA) : 契約の継続

	合 計	契約を続 ける	たぶん契 約続ける	たぶん解 約する	解約する	わからない	不 明
全体	143 (100.0)	51 (35.7)	59 (41.3)	15 (10.5)	2 (1.4)	13 (9.1)	3 (2.1)
高いと思う	89 (100.0)	25 (28.1)	38 (42.7)	15 (16.9)	2 (2.2)	8 (9.0)	1 (1.1)
適正だと思う	43 (100.0)	23 (53.5)	18 (41.9)	—	—	2 (4.7)	—
分からない	11 (100.0)	3 (27.3)	3 (27.3)	—	—	3 (27.3)	2 (18.2)

実数 (%)

視聴契約の継続に関して91年調査と今回の結果を比較すると、表3-6のようになる。

91年調査より今回の方が契約継続希望者が若干増えているが、先述のとおり、サンプルの属性が異なるため、単純にはいえない。今回は7割以上が「自分が加入決定者」であることからこのような結果になったと思われる。なお、 χ^2 検定の結果、性別とコスト感・加入決定に有意な関連はみられなかった。91年調査よりも加入決定者（加入決定権を有していると考えられる者）が多い今回の調査の方が実際の視聴契約の動向を推測する上では有効であろう。ちなみに91年調査では民放開局後に「解約する」「解約するかもしれない」と答えたものが35.9%だったにも関わらず、実際の解約率は6%～7%程度だという。(6)

表3-6 <宮古テレビとの視聴契約>

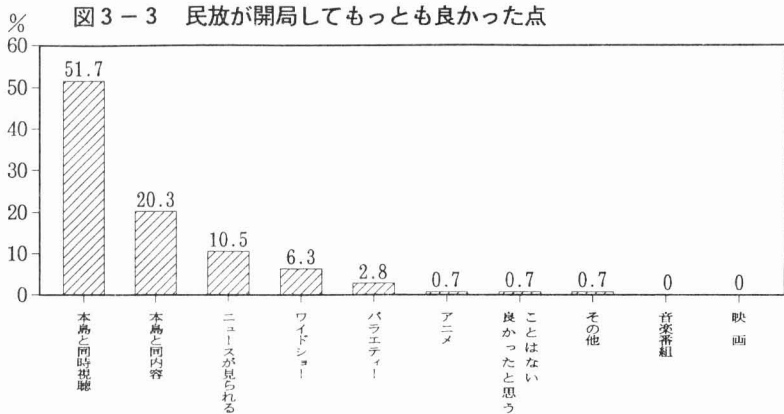
	91年	94年
契約を続ける	26.3(41)	35.7(51)
契約を続けると思う	30.1(47)	41.3(59)
解約すると思う	15.4(24)	10.5(15)
解約する	20.5(32)	1.4(2)
わからない	※	9.1(13)
その他	7.7(12)	2.1(3)

※項目なし

%(実数)

では、住民待望の民放に対する宮古テレビ視聴者の評価はどのようなものであろうか。「民放が開局して最も良かったこと」は何かとの間に対して「本島と同時視聴ができる」（51.7%）と「本島と同じ内容の番組が見られる」（20.3%）と回答したものがその他の回答よりとび抜けて多い。

(図3-3)



つまり、既に宮古テレビに加入していて自主チャンネルで民放の様々な番組を視聴してきた者にとって、今回の民放開局は、民放の番組が見られること自体に魅力があるのではなく、本島や東京とタイムラグ無く番組が見られるということに対して「良かった」と考えている。「本島と同時視聴」「本島と同内容」「ニュースが見られる」に共通してみられるのは、テレビ放送に関しては沖縄本島と同じ情報環境になったということへの喜びである。かつて民放の番組を異時再送信のみに頼っていた頃は、本島民放局の方のローカルニュースが宮古では翌日の昼前に放送されるなど、視聴者にとってはタイムラグを痛感させられることが多かった。これまでもニュース番組があったにもかかわらず、第3位に「ニュースが見られる」が挙げられているのは以上のような状況が解消されたことへの評価と思われる。

民放の開局を評価する人々には本島との格差を解消すること自体を重視する層と、多様な番組を見られることを評価する層があると思われる。そこで、格差是正派は、地理的条件によって生じる格差が民放の開局により解消されつつあると感じているとの仮説をたて、検証してみた。「民放が開局してもっとも良かったと思うこと」への回答を「同時視聴(できる)」「同内容(の番組が見れる)」「多様な番組(が見られる)」に分類し、

民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価（比嘉）

民放の開局により、沖縄本島あるいは日本本土との認知上の距離が縮まったかを検討した結果が表3-7と表3-8・図3-4である。

表3-7 表側（SA）：良かった点（民放） × 表頭（SA）：本島が身近

	合 計	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない	わからな い	不 明
全体	143 (100.0)	83 (58.0)	38 (26.6)	7 (4.9)	10 (7.0)	2 (1.4)	3 (2.1)
同時視聴	74 (100.0)	43 (58.1)	23 (31.1)	2 (2.7)	3 (4.1)	1 (1.4)	2 (2.7)
同内容	29 (100.0)	18 (62.1)	9 (31.0)	1 (3.4)	—	—	1 (3.4)
多様な番組	31 (100.0)	16 (51.6)	4 (12.9)	4 (12.9)	6 (19.4)	1 (3.2)	—

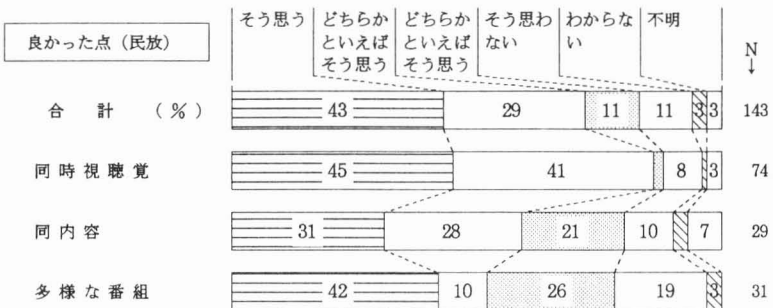
実数（%）

表3-8 表側（SA）：良かった点（民放） × 表頭（SA）：本土が身近

	合 計	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない	わからな い	不 明
全体	143 (100.0)	62 (43.4)	42 (29.4)	16 (11.2)	16 (11.2)	3 (2.1)	4 (2.8)
同時視聴	74 (100.0)	33 (44.6)	30 (40.5)	2 (2.7)	6 (8.1)	1 (1.4)	2 (2.7)
同内容	29 (100.0)	9 (31.0)	8 (27.6)	6 (20.7)	3 (10.3)	1 (3.4)	2 (6.9)
多様な番組	31 (100.0)	13 (41.9)	3 (9.7)	8 (25.8)	6 (19.4)	1 (3.2)	—

実数（%）

図3-4 本土が身近になったと思う × 民放が開局してよかった点



同時視聴と同内容を評価する「格差是正」派のほうが、「番組重視」派よりも民放開局により本島・本土を身近に感じる傾向にある。本島の場合は $\chi^2(8)=18.68, P<.05$ で有意関連があり、本土の場合は $\chi^2(8)=22.75, P<.005$ で非常に高い関連がある。

情報を含め様々な格差が生じる原因は宮古島の地理的位置による。「情報格差が無い」ことに価値をおく人々は、民放が開局し、本島や本土と同時に同じ内容の番組が視聴可能となったことで、情報格差が減少したと感じた。情報格差がなくなると感じる事が、格差の原因であった本島や本土との物理的距離を認知上とはいえ縮めることになったと考えられる。

今回は民放が開局して間もない時期の調査ということもあり、このような結果となったが、時間が経過するにつれ、「同時・同内容」が当然となり、それ以外の番組内容に対する要望や批判などが多く出るであろう。

それに関連して民放番組の影響に、宮古テレビの視聴コストが「高い」と感じている者ほど「民放の開局により、将来、こどもに悪い影響が出ると思う」傾向があるという結果が得られた。換言すれば、宮古テレビに満足している者ほど民放番組が子供に悪影響を与えるとは思わない傾向にあるということである。（ $\chi^2(8)=16.08, P<.05$ ）（表3-9）

表3-9 表側(SA)：コスト感 表頭(SA)：子供に悪影響

	合計	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	不明
全体	143 (100.0)	16 (11.2)	22 (15.4)	32 (22.4)	57 (39.9)	12 (8.4)	4 (2.8)
高いと思う	89 (100.0)	13 (14.6)	18 (20.2)	18 (20.2)	33 (37.1)	4 (4.5)	3 (3.4)
適正だと思う	43 (100.0)	3 (7.0)	2 (4.7)	11 (25.6)	21 (48.8)	5 (11.6)	1 (2.3)
分からない	11 (100.0)	—	2 (18.2)	3 (27.3)	3 (27.3)	3 (27.3)	—

実数(%)

3-2 メディア依存と評価

各種の社会情報についてマス・メディアが役立っているかを尋ね、次に各情報に関して最も役立つメディアを挙げてもらった。後者の結果を示したのが図3-4である。なお、本島県紙とは『琉球新報』と『沖縄タイムス』を、宮古地元紙とは『宮古毎日』と『宮古新報』をさす。

図3-5

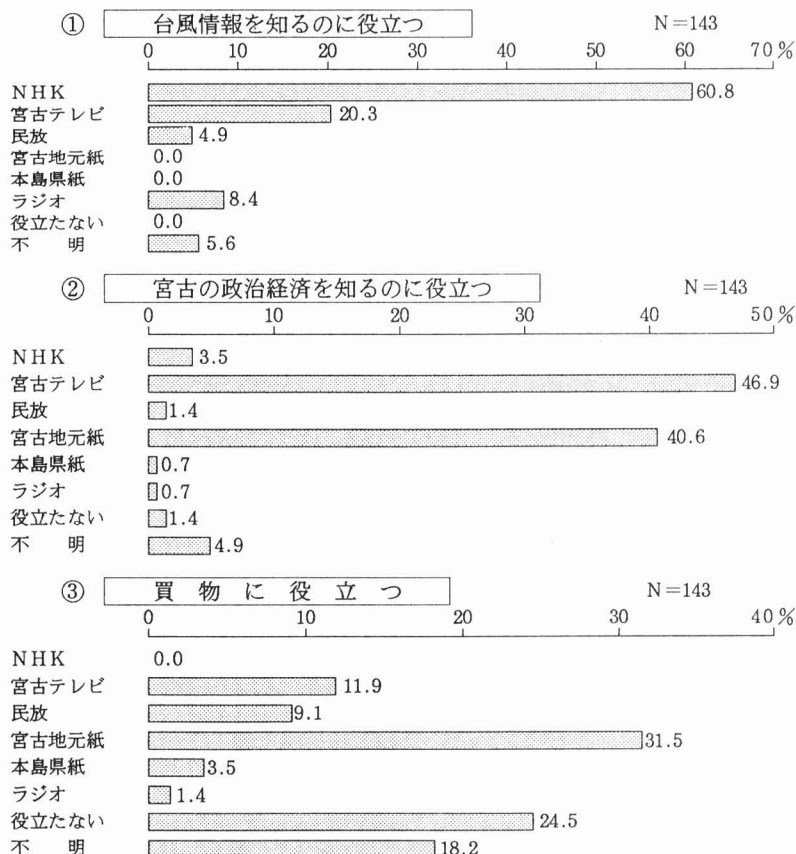


図 3-5

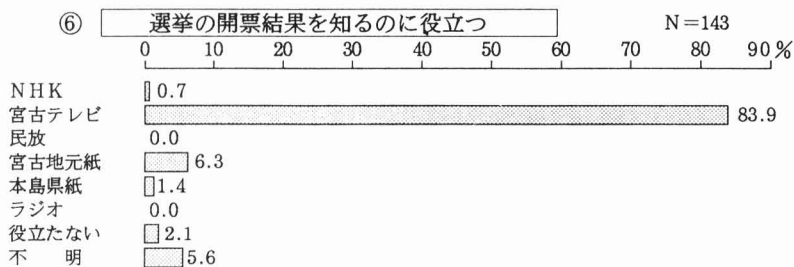
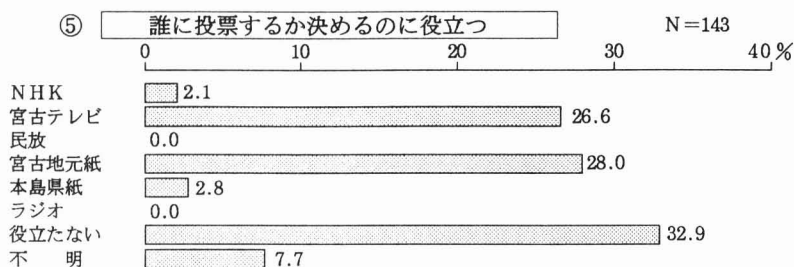
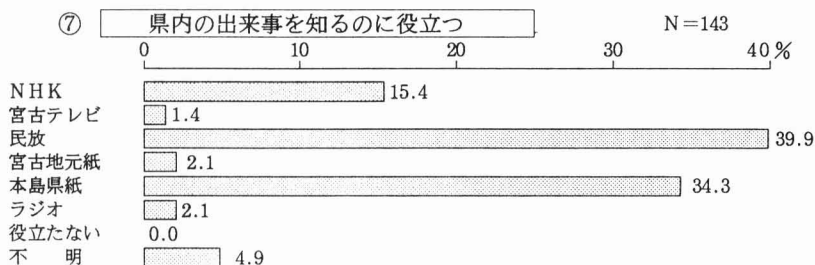
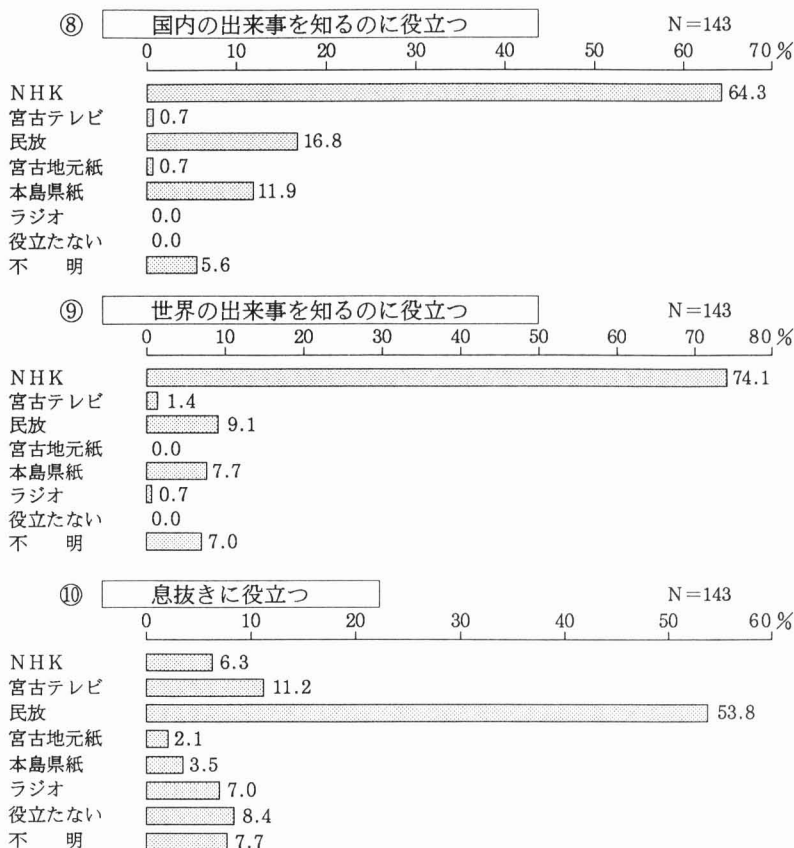


図 3-5



民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価（比嘉）



メディアが最も役立っていると評価されているのは「台風情報を知る」（「そう思う」86%）、「選挙の開票結果」（同66.4%）、「県内の出来事を知る」「国内の出来事を知る」（それぞれ同65.7%）の順で、逆にメディアは役だっていないと評価されているのは「買物」（「そう思わない」39.9%）、「誰に投票するか決める」（同39.2%）となっており、明らかに情報の摂取はメディアに依存し、意志決定を伴う事柄に関してはメディア以外のパーソナルな影響力が働いていることが伺える。ちなみに1980年に宮古の主婦を対象に実施された琉球大学の調査によると6割の者がテレ

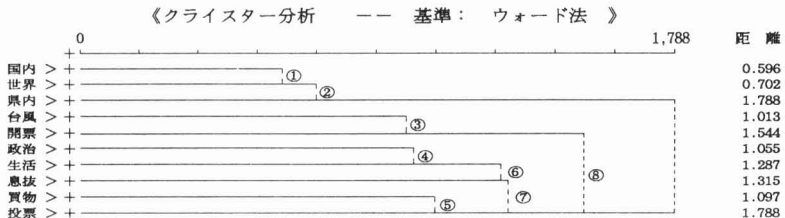
ビのCMが買物や生活に役だっていると答えたものの、実際の購買行動では「影響を受けていない」と答えるものが4割、「影響を受けている」、「わからない」がそれぞれ3割近くと分散してる。〈宮城・保坂、1981:126〉

次に役立つメディアであるが、「台風情報」「国内の出来事」「世界の出来事」を知る上ではNHKの評価が高い。しかし、ローカル情報となると宮古テレビと地元紙である『宮古毎日』『宮古新報』の評価が高くなる。例えば、宮古の政治・経済を知る上で役立つのは「宮古テレビ」(46.9%)と「宮古の地元紙」(40.6%)であり、宮古の人々の生活を知るのに役立つのもまた「宮古の地元紙」(44.1%)と「宮古テレビ」(39.9%)である。宮古テレビが最も役立つとされているのは「市長選挙や市議選挙の開票結果を知る」(83.9%)際であり、ローカル放送局の速報性が評価されている。ちなみに宮古地域内の選挙の際は選挙事務所からの申し込みも含めて宮古テレビの加入件数が増えるという。

市長選や市議選で誰に投票するか決めるのには、先に見たようにメディアへの依存は低く、ここでも「役立たない」が32.9%であるが、「宮古の地元紙」(28.0%)が「宮古テレビ」(26.6%)と同様、ある程度は役立っているとの評価を受けている。また、買物に役立っているのは「宮古の地元紙」(31.5%)で、「宮古テレビ」(11.9%)よりも評価は高い。民放は「県内の出来事を知る」(39.9%)「息抜き」(53.8%)に関して他のメディアより役立つとされている。

メディア評価(役立ち度)のクラスター分析結果をデンドログラムで表したのが図3-5である。

図3-6



まず始めに「国内の出来事を知る」、「世界の出来事を知る」と「県内の出来事を知る」がひとつのクラスターをつくる。（①②）これは宮古の住民にとって生活圏外の社会情報に対するメディア評価である。「台風情報を知る」と「市長選や市議選の開票結果を知る」がクラスターを形成している。（③）これは宮古圏内のパーソナルな影響を受けない即時性が重視される社会情報に対するメディア評価を表す。クラスター④は宮古の人の生活に関連した情報（「宮古の政治について知る」「宮古の人々の生活を知る」）に対するメディア評価、また⑤は意志決定に影響を与える情報（「買物をする」「市長選や市議選で誰に投票するか決める」）に対するメディア評価であり、他とやや異質な「息抜きに役立つ」と併合されてクラスター⑥となり、さらにクラスター⑤と併合されて⑦となる。クラスター⑦はメディア以外のパーソナルな影響をうける可能性もある生活情報に関するメディア評価であり、③を併合すると宮古圏内の社会情報に関するメディア評価になる。図3-5のデンドログラムと図3-4で示した「役立つメディア」から以下のことが考察されよう。生活圏外の情報に関してはNHK、民放、本島の県紙が役立つと評価され、意志決定と関連が薄く即時性を求められる宮古圏内の情報を知るには宮古テレビとNHKが評価されている。また、政治を含めた宮古の生活情報は宮古テレビと地元紙が役立つ、意志決定を伴う買物や投票に関してはメディアは役立っているとの評価は少ないものの、宮古の地元紙と宮古テレビが若干の評価を受けている。以上のことから人々は意識的にはないにせよ情報の性質に応じてメディアを使い分けていることが伺える。

4 おわりに

宮古テレビ社長の藤村明憲氏は民放開局に伴う同社の経営合理化の一環として人員削減と共に自主制作の規模縮小を計画しているとの考えを示しており、ローカル番組は継続して制作するものの、これからは従来のマス・

コミ意識を捨て、番組サプライヤーに徹しなければならないことを強調している。⁽⁷⁾「とにかく生きることが先決だ」とのことだが、同氏が指摘するような「若年層が少なく、新しいものにとびつかない農村型」社会において都市型多チャンネル志向が果して宮古のCATV視聴者に現時点で魅力となるのであろうか。

本稿で考察したように、宮古テレビに対して視聴者が求めるのは「宮古ローカル民放」としてのCATV局である。映画や音楽専用チャンネルは今のところそれほど求められてはいない。宮古唯一の「民放」ではなくなった現在、ローカル情報を視聴者のニーズに合わせて自主制作しながら、特化情報への人々の関心が高まるのを待つしかないであろう。民放が開局したことは特に若年層における特化情報への志向をより加速することに結果的にはなるかもしれない。民放開局による情報環境の変化が及ぼす若年層への影響は今後の研究課題となろう。

「情報格差の是正」「多チャンネル化」政策が結果的にはローカル情報メディアを窮地に追い込む現状をみると、手放しで「情報化」を喜ぶことはできない。この種の「情報化」は離島の住民やその生活にどのような影響を与え、いかほど有益なのであろうか。本島と宮古間の放送用回線が本島からの「下り」専用であることが象徴的なことのように思えてならない。

<注釈>

- (1)NHKの資料はNHK宮古事務所の統計資料による。県宮古支庁発行の「宮古概観」1992年より
- (2)『宮古毎日新聞』 1993年12月28日。『宮古新報』1993年12月29日。
- (3)宮古テレビの場合、本島の民放と東京のキー局の番組がビデオパッケージで空輸され、独自に編成して半日から1～2週間遅れで異時再送信している。このタイムラグに対して住民の間には不満の声がある。この件に関しては<宮城 他、1993 :75 >を参照。

（4）「基盤情報」とは公共情報・一般情報を指し、「特化情報」とは視聴者のより個人的嗜好に合致した専門的情報をいう。

日本民間放送連盟研究所編「2000年の放送ビジョンー多チャンネル時代の視聴者と民放」

（5）1993年12月現在。

（6）宮古テレビ藤村明憲社長へのインタビュー。

（7）1994年6月13日、著者とのインタビュー。同様の発言は同年6月25日に琉球大学で行われた日本マス・コミュニケーション学会でもなされた。

<文献>

宮城悦二郎・保坂廣志，1981年，「宮古島における民放（CATV）導入とその影響ー主婦の購買行動を中心にー」，琉球大学法文学部紀要社会学篇第24号

宮城悦二郎・保坂廣志・藤田高弘・音好宏・比嘉要，1993年，「宮古島における多チャンネル化と住民意識の変容」，琉球大学法文学部紀要社会学篇第35号

沖縄県先島地区の民放テレビジョン放送等の難視聴の実態及びその対策に関する調査研究会，1991年，「沖縄県先島地区の民放テレビジョン放送等の難視聴の実態及びその対策に関する調査研究会報告書」

日本民間放送連盟研究所，1991年，「2000年の放送ビジョンー多チャンネル時代の視聴者と民放」，コーケン出版

単純集計結果

(N=143)

Q 1	性別	(S A)
1)	男	107(74.8)
2)	女	35(24.5)
	不 明	1(0.7)
Q 2	年齢	(S A)
4)	40～49歳	46(32.2)
5)	50～59歳	31(21.7)
6)	60～69歳	25(17.5)
3)	30～39歳	21(14.7)
7)	70歳以上	12(8.4)
2)	20～29歳	6(4.2)
1)	19歳以下	2(1.4)
	不 明	0(0.0)
Q 3	生まれ	(S A)
1)	宮古地区	127(88.8)
2)	県内(宮古以外)	8(5.6)
4)	その他	4(2.8)
3)	本土	3(2.1)
	不 明	1(0.7)
Q 4	職業	(S A)
2)	専門技術職	24(16.8)
1)	管理職	19(13.3)
7)	農業	16(11.2)
12)	その他	16(11.2)
4)	販売サービス業	14(9.8)
3)	事務職	11(7.7)
9)	主婦	11(7.7)
6)	商工自営	11(7.7)
11)	無職失業中	10(7.0)
5)	労務職	6(4.2)
10)	学生	2(1.4)
8)	漁業	1(0.7)
	不 明	2(1.4)

民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価（比嘉）

Q 5	加入期間	(S A)
5)	5年以上	102(71.3)
4)	3～5年	18(12.6)
3)	2～3年	13(9.1)
2)	1～2年	5(3.5)
1)	1年以内	5(3.5)
	不 明	0(0.0)
Q 6	自分が加入決定者か	(S A)
1)	はい	108(75.5)
2)	いいえ	35(24.5)
	不 明	0(0.0)
Q 7	テレビ視聴時間	(S A)
3)	2～3時間	43(30.1)
4)	3～4時間	38(26.6)
2)	1～2時間	25(17.5)
5)	4～5時間	15(10.5)
6)	5～6時間	12(8.4)
7)	6時間以上	8(5.6)
1)	1時間未満	2(1.4)
	不 明	0(0.0)
Q 8	良かった点（宮古テレビ）	(S A)
4)	宮古のニュース	81(56.6)
1)	スポーツ番組	21(14.7)
5)	映画	9(6.3)
3)	バラエティー番組	7(4.9)
2)	ドラマ	5(3.5)
10)	郷土芸能番組	5(3.5)
7)	海外ニュース	3(2.1)
9)	ワイドショー	2(1.4)
6)	音楽番組	2(1.4)
8)	アニメ	1(0.7)
11)	良かったことはない	0(0.0)
13)	その他	0(0.0)
	不 明	7(4.9)

Q9	コスト感	(S A)
1)	高いと思う	89(62.2)
2)	適正だと思う	43(30.1)
4)	わからない	11(7.7)
3)	安いと思う	0(0.0)
	不 明	0(0.0)
Q10	有料チャンネルへの加入	(MA)
1)	加入していない	102(71.3)
2)	NHK衛星放送	24(16.8)
4)	スターチャンネル	11(7.7)
5)	WOWOW	8(5.6)
3)	衛星映画劇場	6(4.2)
	不 明	10(7.0)
Q11	よく見るチャンネル	(MA)
7)	NHK総合	73(51.0)
3)	琉球放送	51(35.7)
8)	宮古テレビ(NTV他)	47(32.9)
1)	沖縄テレビ	46(32.2)
5)	C S N	10(7.0)
9)	宮古テレビ(字種制作	10(7.0)
6)	スーパーチャンネル	9(6.3)
10)	朝費ニュースター	8(5.6)
11)	GAORA	8(5.6)
14)	N K H 衛星第 1	5(3.5)
2)	スポーツアイ	4(2.8)
12)	スペースシャワー	2(1.4)
4)	N H K 教育	2(1.4)
18)	WOWOW	2(1.4)
15)	C-15NHK衛星第2	1(0.7)
17)	C-17スターチャンネル	1(0.7)
13)	MTV	1(0.7)
16)	C-16衛星劇場	0(0.0)
	不 明	2(1.4)

民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価（比嘉）

Q12 良かった点（民放）	(S A)
7) 本島と同時視聴	74(51.7)
4) 本島と同内容	29(20.3)
6) ニュース	15(10.5)
2) ワイドショー	9(6.3)
1) バラエティー番組	4(2.8)
8) アニメ	1(0.7)
9) 良かったと思うことはない	1(0.7)
10) その他	1(0.7)
5) 音楽番組	0(0.0)
3) 映画	0(0.0)
不 明	9(6.3)
Q13 契約の継続	(S A)
2) たぶん契約続ける	59(41.3)
1) 契約を続ける	51(35.7)
3) たぶん解約する	15(10.5)
5) わからない	13(9.1)
4) 解約する	2(1.4)
不 名	3(2.1)
Q14 台風情報を知るのにメディアは役立つ	(S A)
1) そう思う	123(86.0)
2) どちらかといえばそう思う	15(10.5)
3) どちらからといえばそう思わない	2(1.4)
4) そう思わない	1(0.7)
5) わからない	0(0.0)
不 明	2(1.4)
Q15 宮古の政治経済を知るのにメディアは役立つ	(S A)
1) そう思う	76(53.1)
2) どちらかといえばそう思う	46(32.2)
3) どちらからといえばそう思わない	6(4.2)
4) そう思わない	5(3.5)
5) わからない	4(2.8)
不 明	6(4.2)

Q16 買物をするのにメディアは役立つ	(S A)
4) そう思わない	57(39.9)
2) どちらかといえばそう思う	30(21.0)
3) どちらかといえばそう思わない	26(18.2)
1) そう思う	14(9.8)
5) わからない	6(4.2)
不 明	10(7.0)
Q17 住民の生活を知るのにメディアは役立つ	(S A)
2) どちらかといえばそう思う	50(35.0)
1) そう思う	47(32.9)
3) どちらかといえばそう思わない	25(17.5)
4) そう思わない	12(8.4)
5) わからない	5(3.5)
不 明	4(2.8)
Q18 投票決定にメディアは役立つ	(S A)
4) そう思わない	56(39.2)
2) どちらかといえばそう思う	29(20.3)
1) そう思う	26(18.2)
3) どちらかといえばそう思わない	24(16.8)
5) わからない	6(4.2)
不 名	2(1.4)
Q19 開票結果を知るのにメディアは役立つ	(S A)
1) そう思う	95(66.4)
2) どちらかといえばそう思う	37(25.9)
3) どちらかといえばそう思わない	4(2.8)
4) そう思わない	3(2.1)
5) わからない	2(1.4)
不 明	2(1.4)
Q20 県内の出来事を知るのにメディアは役立つ	(S A)
1) そう思う	94(65.7)
2) どちらかといえばそう思う	38(26.6)
3) どちらかといえばそう思わない	5(3.5)
4) そう思わない	2(1.4)
5) わからない	1(0.7)
不 明	3(2.1)

民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価（比嘉）

Q21 国内の出来事を知るのにメディアは役立つ	(S A)
1) そう思う	94(65.7)
2) どちらかといえばそう思う	32(22.4)
4) そう思わない	8(5.6)
3) どちらかといえばそう思わない	5(3.5)
5) わからない	2(1.4)
不 明	2(1.4)
Q22 世界の出来事を知るのにメディアは役立つ	(S A)
1) そう思う	89(62.2)
2) どちらかといえばそう思う	36(25.2)
4) そう思わない	7(4.9)
3) どちらかといえばそう思わない	6(4.2)
5) わからない	2(1.4)
不 明	3(2.1)
Q23 息抜きにメディアは役立つ	(S A)
2) どちらかといえばそう思う	55(38.5)
1) そう思う	50(35.0)
4) そう思わない	16(11.2)
3) どちらかといえばそう思わない	13(9.1)
5) わからない	6(4.2)
不 明	3(2.1)
Q24 台風情報を知るのに役立つ	(S A)
1) N H K	87(60.8)
2) 宮古テレビ	29(20.3)
6) ラジオ	12(8.4)
3) 民放	7(4.9)
5) 本島県紙	0(0.0)
4) 宮古地元紙	0(0.0)
7) 役立たない	0(0.0)
不 明	8(5.6)

Q25 宮古の政治経済を知るのに役立つ	(S A)
2) 宮古テレビ	67(46.9)
4) 宮古地元紙	58(40.6)
1) N H K	5(3.5)
3) 民放	2(1.4)
7) 役立たない	2(1.4)
6) ラジオ	1(0.7)
5) 本島県紙	1(0.7)
不 明	7(4.9)
Q26 買い物をするのに役立つ	(S A)
4) 宮古地元紙	45(31.5)
7) 役立たない	35(24.5)
2) 宮古テレビ	17(11.9)
3) 民放	13(9.1)
5) 本島県紙	5(3.5)
6) ラジオ	2(1.4)
1) N H K	0(0.0)
不 名	26(18.2)
Q27 住民の生活を知るのに役立つ	(S A)
4) 宮古地元紙	63(44.1)
2) 宮古テレビ	57(39.9)
7) 役立たない	5(3.5)
3) 民放	2(1.4)
5) 本島県紙	0(0.0)
6) ラジオ	0(0.0)
1) N H K	0(0.0)
不 明	16(11.2)
Q28 投票決定を知るのに役立つ	(S A)
7) 役立たない	47(32.9)
4) 宮古地元紙	40(28.0)
2) 宮古テレビ	38(26.6)
5) 本島県紙	4(2.8)
1) N H K	3(2.1)
6) ラジオ	0(0.0)
3) 民放	0(0.0)
不 明	11(7.7)

民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価（比嘉）

Q29 開票結果を知るのに役立つ	(S A)
2) 宮古テレビ	120(83.9)
4) 宮古地元紙	9(6.3)
7) 役立たない	3(2.1)
5) 本島県紙	2(1.4)
1) N H K	1(0.7)
6) ラジオ	0(0.0)
3) 民放	8(5.6)
不 明	8(5.6)
Q30 県内の出来事を知るのに役立つ	(S A)
3) 民放	57(39.9)
5) 本島県紙	49(34.3)
1) N H K	22(15.4)
4) 宮古地元紙	3(2.1)
6) ラジオ	3(2.1)
2) 宮古テレビ	2(1.4)
7) 役立たない	0(0.0)
不 明	7(4.9)
Q31 国内の出来事を知るのに役立つ	(S A)
1) N H K	92(64.3)
3) 民放	24(16.8)
5) 本島県紙	17(11.9)
4) 宮古地元紙	1(0.7)
2) 宮古てれび	1(0.7)
6) ラジオ	0(0.0)
7) 役立たない	0(0.0)
不 明	8(5.6)
Q32 世界の出来事を知るのに役立つ	(S A)
1) N H K	106(74.1)
2) 民放	13(9.1)
5) 本島県紙	11(7.7)
2) 宮古テレビ	2(1.4)
6) ラジオ	1(0.7)
4) 宮古地元紙	0(0.0)
7) 役立たない	0(0.0)
不 明	10(7.0)

- Q33 息抜きに役立つ (S A)
- | | |
|----------|----------|
| 3) 民放 | 77(53.8) |
| 2) 宮古テレビ | 16(11.2) |
| 7) 役立たない | 12(8.4) |
| 6) ラジオ | 10(7.0) |
| 1) N H K | 9(6.3) |
| 5) 本島県紙 | 5(3.5) |
| 4) 宮古地元紙 | 3(2.1) |
| 不 明 | 11(7.7) |
- Q34 宮古に住みたい (S A)
- | | |
|-------------------|----------|
| 1) そう思う | 97(67.8) |
| 2) どちらかといえばそう思う | 25(17.5) |
| 5) わからない | 7(4.9) |
| 3) どちらかといえばそう思わない | 6(4.2) |
| 4) そう思わない | 4(2.8) |
| 不 明 | 4(2.8) |
- Q35 基盤施設が劣る (S A)
- | | |
|-------------------|----------|
| 1) そう思う | 64(44.8) |
| 2) どちらかといえばそう思う | 38(26.6) |
| 3) どちらかといえばそう思わない | 19(13.3) |
| 4) そう思わない | 12(8.4) |
| 5) わからない | 5(3.5) |
| 不 明 | 5(3.5) |
- Q36 宮古の文化はすばらしい (S A)
- | | |
|-------------------|----------|
| 1) そう思う | 59(41.3) |
| 2) どちらかといえばそう思う | 41(28.7) |
| 3) どちらかといえばそう思わない | 22(15.4) |
| 4) そう思わない | 8(5.6) |
| 5) わからない | 7(4.9) |
| 不 明 | 6(4.2) |
- Q37 宮古の人は劣る (S A)
- | | |
|-------------------|----------|
| 4) そう思わない | 93(65.0) |
| 3) どちらかといえばそう思わない | 22(15.4) |
| 1) そう思う | 10(7.0) |
| 2) どちらかといえばそう思う | 8(5.6) |
| 5) わからない | 5(3.5) |
| 不 明 | 5(3.5) |

民放開局に対する視聴者の意識とメディア評価（比嘉）

Q38 宮古情報をもっと知りたい	(S A)
1) そう思う	71(49.7)
2) どちらかといえばそう思う	40(28.0)
4) そう思わない	11(7.7)
3) どちらかといえばそう思わない	10(7.0)
5) わからない	4(2.8)
不 明	7(4.9)
Q39 本島が身近になった	(S A)
1) そう思う	83(58.0)
2) どちらかといえばそう思う	38(26.6)
4) そう思わない	10(7.0)
3) どちらかといえばそう思わない	7(4.9)
5) わからない	2(1.4)
不 明	3(2.1)
Q40 本土が身近になった	(S A)
1) そう思う	62(43.4)
2) どちらかといえばそう思う	42(29.4)
3) どちらかといえばそう思わない	16(11.2)
4) そう思わない	16(11.2)
5) わからない	3(2.1)
不 明	4(2.8)
Q41 民放開局で子供に悪影響がでる	(S A)
4) そう思わない	57(39.9)
3) どちらかといえばそう思わない	32(22.4)
2) どちらかといえばそう思う	22(15.4)
1) そう思う	16(11.2)
5) わからない	12(8.4)
不 明	4(2.8)
Q42 宮古文化は残る	(S A)
1) そう思う	50(35.0)
2) どちらかといえばそう思う	39(27.3)
3) どちらかといえばそう思わない	23(16.1)
5) わからない	13(9.1)
4) そう思わない	12(8.4)
不 明	6(4.2)